

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 453 号 平成 24 年 12 月 11 日

読書条例

恵庭市では、第4回定例会市議会に「読書条例案（恵庭市人とまちを育む読書条例案）」を提案しています。

もともと恵庭市は「読書のまち」を掲げ、子どもから大人まで本に親しむ街づくりを進めて来ており、これまでも全道に先駆けて、乳児に絵本をプレゼントするブックスタート事業や市内全小中学校への司書配置などに取り組んで来ていますが、今回提案されている「読書条例案」が成立すると、道内の自治体では初めてとなります。

恵庭市では、この条例案をまとめるまでに、市民ワークショップを開催するなど、市民参加のもとで検討を進めて来ました。

条例案の内容を見ると、まず、「言葉や知識を学び、感性を磨き、想像力を豊かにし、生きる力を育てる」という読書活動の意義を踏まえ、「いつでもどこでもだれでも読書活動をおこなうことができるよう、市民、家庭、地域、学校が一体となって環境づくりに努め、人とまちを育む読書活動を推進する」としています。

また、家庭や地域、学校、行政が一体となって「読書のまちづくり」に取り組む事、特に市に対しては、「読書活動の推進に関する基本的で総合的な推進計画を策定し、市民の読書活動を効果的に推進する」よう求めています。

「読書のまちづくり」という点では、茨城県太子町も有名で、町に7つある小学校いずれも朝読書に取り組んでおり、2年連続で4～6年生は全員が年間50冊の読書を達成しているそうです。

同町立の袋田小学校では、毎月1回上級生による下級生への読み聞かせを行っており、6年生は1年生、5年生は2年生に、それぞれ自ら選んだ絵本などを読み聞かせています。

同校の安斉校長は、「子どもは自分の置かれた環境に育てられるといいます。本を読み、想像をふくらませば、自分を取り巻く世界がどんどん広がっていきます。」と述べています（10月31日付朝日新聞）が、幼い頃から本に親しみ、本を読む力を身に付ける事が出来れば、「自分を取り巻く世界」もさりながら「自分の進む世界」が大きく広がって行くに違いありません。

さて、今年の学力調査の結果が先日公表されました。その中の質問紙調査から、

幾つか紹介したいと思います。

まず、小学校に対して「朝読書」の時間を設けているかどうか聞いたところ

選択項目	北海道	秋田県
基本的に毎日	23.3%	56.8%
週に複数回	38.4%	33.9%
週に1回定期的に	22.3%	8.3%
月に数回	4.5%	0.0%
不定期	9.3%	1.0%
行っていない	2.1%	0.0%

という状況になっています。北海道と秋田県との取り組みの差を感じる事と思います。

次に、子ども達に読書が好きかどうか聞いたところ、

選択項目	北海道	秋田県
当てはまる	47.7%	54.2%
どちらかという当てはまる	23.8%	25.4%
どちらかという当てはまらない	16.5%	13.5%
当てはまらない	11.8%	6.8%

となっており、秋田県の子の方が比較的読書好きといえそうです。

また、普段どれくらいの時間テレビなどを見ているかについて聞いたところ、

選択項目	北海道	秋田県
4時間以上	27.3%	19.8%
3時間以上4時間未満	20.3%	21.4%
2時間以上3時間未満	22.3%	24.1%
1時間以上2時間未満	19.9%	22.9%
1時間未満	9.0%	10.5%
見ない	1.2%	1.2%

となっており、北海道では、普段4時間以上テレビなどを見て過ごしている子が3割近くいるというのは驚きです。これでは、勉強時間が足りなくなるのも分かり

ます。

学校の授業以外に普段どれくらい勉強しているか聞いたところ、

選択項目	北海道	秋田県
3時間以上	5.0%	3.5%
2時間以上3時間未満	9.9%	10.5%
1時間以上2時間未満	29.7%	57.8%
小 計	44.6%	71.8%
30分以上1時間未満	33.0%	24.2%
30分未満	17.4%	3.0%
勉強していない	4.9%	0.9%

となっており、北海道の子ども達の勉強時間が、圧倒的に少ない事が分かります。

朝読書を実施すれば読書好きになるとか、勉強をするようになる短絡的に結びつける考えはありませんが、しかし、子ども達が本に親しみ、読書する習慣が身に付けば、普段の学習にも良い影響を与えるであろう事は容易に想像できます。

従って、各学校においては、効果的な朝読書を積極的に実践して頂きたいと思いますが、子ども達に読書習慣を身に付けさせる為には学校の取り組みだけでは不十分で、子ども達が学校から帰宅した後の、家庭の中での読書環境が非常に重要になって来ます。

その意味で、恵庭市が読書を街づくりの柱に据え、家庭をはじめ学校、地域、そして行政が一体となった読書活動に取り組もうとしている事は、大いに評価されるべきだと思います。(塾頭：吉田 洋一)